

2026-2028

第3次中期事業計画

令和8年度～令和10年度



日本赤十字社 千葉県支部
Japanese Red Cross Society

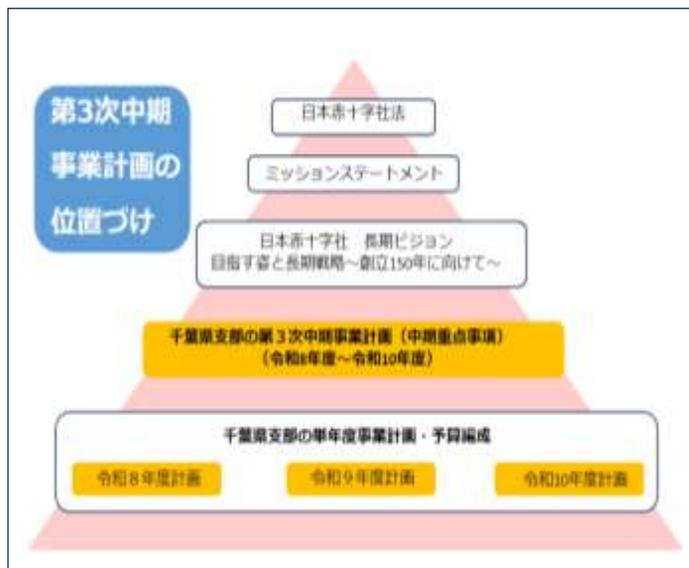
日本赤十字社は、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ことを使命として、様々な赤十字事業を展開しています。

現在、人口構造の変化、地域社会の変容、テクノロジーの加速度的な進化、国際社会の分断など、日本赤十字社を取り巻く状況は大きく変化しています。

こうした中、日本赤十字社は、「日本赤十字社長期ビジョン（令和2年度～令和10年度）」を策定し、組織の進むべき方向性を収束し横断的な結束を高めるとともに、社外への発信を通じて広く国民一人一人の理解・協力を得ながら更なる赤十字運動の推進を図っています。

本計画は、長期ビジョンの集大成に位置付け、千葉県支部が目指す3年後の姿に向けて、4つの視点から「柱」を立て、9つの「重点事項」において、達成すべき目標を掲げて、推進していく事業を体系的に整理しました。

令和9年度に日本赤十字社は創立150周年を迎えます。当支部では、社会環境変化に柔軟に適応しつつ、持続的な成長を実現させながら人道的活動を未来につなぐため、この中期事業計画を基に継続性・一貫性をもたせた年度ごとの事業計画を策定し、積極的に赤十字運動を展開していきます。



第3次中期事業計画を推進するにあたっての わたしたち、千葉県支部の決意

わたしたちは、
『皆が健康で安心・安全に暮らせる社会の実現』を目指し、
赤十字運動の担い手として、人道の実現のために、
利己心と戦い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動します。

ビジョン（目指す姿） 皆が健康で安心・安全に暮らせる社会の実現

柱Ⅰ

災害に備える

大規模災害に備え、災害救護体制の充実・強化を推進するとともに、防災セミナーの普及を通じて地域における防災対応力の向上を図ります。

重点事項 1 大規模災害を見据えた救護体制の強化及び拡充

重点事項 2 地域における防災対応力の向上

柱Ⅱ

いのち・安全を守る健康

講習普及協力団体と連携し、救急法等講習会を通じて救命率と健康・安全意識の向上を図るとともに、超少子高齢社会において、高齢者の健康で豊かな生活と、子どもの命と安全を守ります。

重点事項 3 県民の救命率と健康・安全意識の向上への貢献

重点事項 4 超少子高齢社会における高齢者及び子育て世代とその支援者へのサポート

柱Ⅲ

人の力を集める

赤十字活動に共感し、共に活動する人々を増やし支援の輪を大きくしていくために、様々な人・企業との信頼関係を築き、継続的な協力関係を構築します。

重点事項 5 支援者との関係性強化による活動基盤の安定化

重点事項 6 次世代につなぐ赤十字人材の育成強化

柱Ⅳ

未来につなげる

変容する未来の社会でもその時代において必要とされる人道課題を実践し続けるため、理念に共鳴する人々を増やし、組織の基盤を強化します。

また、将来を担う児童・生徒に「人を思いやる心」を引き継いでいきます

重点事項 7 豊かな心をもった青少年の育成強化

重点事項 8 創立150年の歴史を50年先の未来につなげる基盤の構築

重点事項 9 これからの時代に合った広報の強化

重点事項 1

大規模災害を見据えた救護体制の強化及び拡充

- 1 救護活動における指導者の育成
- 2 救護員研修カリキュラム受講者の拡充による救護員の質の向上

【目的】

- ▶日本赤十字社第2ブロック支部管内の広域支援活動における指導者を育成する。
- ▶救護活動に係る知識・技術を拡充し、医療救護班の災害対応力向上を図る。

【3年間の到達目標・指標】

- ▶第2ブロック支部管内の広域支援活動において関係団体との協働が円滑に行えるよう、救護活動における指導者を育成する。
- ▶救護活動の実践者として必要な心構え・知識・技術を兼ね備えた救護員を育成する。
日本赤十字社救護員育成規程に則った救護員研修カリキュラムの受講者を拡充し、救護員の質の向上を図る。

1 救護活動における指導者の育成

年度	実施計画	指標
R8	指導スタッフ候補者の養成	指導スタッフ候補者の選定
R9	指導スタッフ候補者の管内施設の各種救護研修への参加（指導スタッフとして）	指導スタッフ候補者の研修参加（研修参加者延べ5名以上）
R10	指導スタッフの救護研修への参加（指導スタッフとして）	指導スタッフの研修参加（研修参加者延べ10名以上）

2 救護員研修カリキュラム受講者の拡充による救護員の質の向上

年度	実施計画	指標
R8	救護員研修カリキュラムの改訂	救護員研修カリキュラムの改訂（研修受講者延べ130名以上）
R9	救護員研修カリキュラムの研修回数の変更	研修回数の変更（研修受講者延べ130名以上）
R10	研修回数増加に伴う救護員研修カリキュラムの改訂	研修回数変更に伴うカリキュラムの改訂（研修受講者延べ130名以上）

重点事項 2

地域における防災対応力の向上

- 1 千葉県民への防災・減災に関する知識の普及
- 2 防災教育指導者の拡充及びスキルアップ

【目的】

- ▶大規模災害に備え、千葉県内での地域の防災・減災に関する知識・技術の向上を図る。
また、災害応急対応にあたる地域のリーダー層（防災セミナー受講生）を育成する。
- ▶防災・減災に関する知識を普及する日本赤十字社防災教育事業指導者（以下、「防災教育指導者」という。）の養成とスキルアップを行う。

【3年間の到達目標・指標】

- ▶千葉県で千葉県赤十字奉仕団と千葉県赤十字防災ボランティアが協働で、赤十字防災セミナーを開催する。
- ▶3年間で新たに25名以上の防災教育指導者を養成するとともに、指導者個人のスキルアップを図る。

1 千葉県民への防災・減災に関する知識の普及

年度	実施計画	指標
R8	千葉県全域における赤十字防災セミナー展開方法の検討	千葉県内での赤十字防災セミナー展開方法の確立（千葉県全域でセミナー開催30回以上）
R9	千葉県全域で赤十字防災セミナーを開催	千葉県全域でセミナー開催（35回以上）
R10	千葉県全域で赤十字防災セミナーを開催	千葉県全域でセミナー開催（40回以上）

2 防災教育指導者の拡充及びスキルアップ

年度	実施計画	指標
R8	新規カリキュラム普及に向けた防災教育指導者フォローアップ研修の開催	防災教育指導者フォローアップ研修会（受講者数30名以上）
R9	防災教育指導者養成研修会の開催	防災教育指導者養成（25名以上）
R10	ボランティア主体での開催に向けた防災教育指導者フォローアップ研修の開催	<ol style="list-style-type: none"> 1 ボランティアの防災教育指導者フォローアップ（研修受講者15名以上） 2 主任指導者の選定（1名）

重点事項 3

県民の救命率と健康・安全意識の向上への貢献

1 講習普及協力団体の講習普及計画の策定及び講習開催

【目的】

- ▶企業、団体及び教育関連施設等の講習普及協力団体と連携し、1人でも多くの救命につながる講習を普及する。

【3年間の到達目標・指標】

- ▶講習普及協力団体における講習開催回数を3年間で10%増やす（令和6年度比）。

1 講習普及協力団体の講習普及計画の策定及び講習開催

年度	実施計画	指標
R8	講習普及協力団体への講習提案	講習普及協力団体に対する提案と計画策定（講習475回開催）
R9	講習普及協力団体との講習開催	講習普及協力団体における講習の開催（講習500回開催）
R10	講習普及協力団体との講習開催	講習普及協力団体における講習の開催（講習525回開催）

重点事項 4

超少子高齢社会における高齢者及び子育て世代とその支援者へのサポート

1 健康生活支援講習及び幼児安全法講習の短期講習内容を分析し、高齢者及び子育て世代とその支援者へのサポートに特化した講習メニューの作成・講習開催

【目的】

- ▶超少子高齢社会において、高齢者の健康で豊かな生活と、子どもの命と安全を守る活動を支援する。

【3年間の到達目標・指標】

- ▶ニーズの高い健康生活支援講習・幼児安全法の短期講習メニューを作成し、講習を開催する。

1 健康生活支援講習及び幼児安全法講習の短期講習内容を分析し、高齢者及び子育て世代とその支援者へのサポートに特化した講習メニューの作成・講習開催

年度	実施計画	指標
R8	講習依頼のあった健康生活支援講習・幼児安全法講習の分析及び各短期講習メニューの作成	講習分析及び短期講習メニューの作成
R9	作成した講習メニューの公開及び講習開催	講習メニューのホームページへの公開及び講習実施（講習1回以上、受講者10人以上）
R10	作成した講習メニューによる講習開催	講習実施（講習6回以上、受講者60人以上）

重点事項 5

支援者との関係性強化による活動基盤の安定化

- 1 遺贈・相続財産寄付促進のための支援体制の構築及び広報の強化
- 2 企業・団体との連携強化を目指した赤十字スポンサー制度の拡充

【目的】

- ▶ 士業等専門家との連携を図り、遺贈・相続財産寄付の相談に円滑に対応できる体制を構築する。
- ▶ 企業・団体との相互支援関係の強化により、赤十字事業の理解と賛同を得ることを目的にスポンサー制度の内容の拡充を進める。

【3年間の到達目標・指標】

- ▶ 士業、金融機関との連携により、遺言書作成など相談窓口の紹介や共同セミナーの開催を行う。
- ▶ 既存スポンサーからの意見を取り入れ、共同で行う講習・研修会など提供メニューを拡充することで、赤十字スポンサーの定着と拡大を図る。

1 遺贈・相続財産寄付促進のための支援体制の構築及び広報の強化

年度	実施計画	指標
R8	専門家にアプローチし、関係構築及び共同セミナー開催の準備	司法書士会との協定締結
R9	専門家と共同セミナーの開催	共同セミナー開催（1回以上）
R10	専門家と共同セミナーの開催	共同セミナー開催（1回以上）

2 企業・団体との連携強化を目指した赤十字スポンサー制度の拡充

年度	実施計画	指標
R8	既存のスポンサー認定企業の意識調査を踏まえた制度の検討	既存スポンサーからの意見聴取(10社以上)
R9	赤十字スポンサーの拡充 (同制度の広報、認定企業への事業提供)	スポンサー数 15社
R10	赤十字スポンサーの拡充 (同制度の広報、認定企業への事業提供)	スポンサー数 18社

重点事項 6

次世代につなぐ赤十字人材の育成強化

1 奉仕団員の育成と奉仕団活動を強化する防災・減災に関する研修会の開催の支援

【目的】

- ▶ 奉仕団員を対象とした防災・減災に関する研修会の開催を支援し、団員の技術や知識をより一層深める。
- ▶ 地域に根差した奉仕団員が、ニーズが高まっている自助・共助の備えを地域の方々と一緒に進めることで、活動の基盤づくりや活動強化を図る。
- ▶ 地域住民に対して、赤十字や奉仕団活動への理解を深めることで、新規団員の獲得につなげる。

【3年間の到達目標・指標】

- ▶ 防災・減災に関する研修会等を実施していない奉仕団に対して、赤十字防災セミナーや避難生活支援講習等の開催を支援（1奉仕団あたり2年間）し、3年目に地域住民が参加できる講習等を奉仕団が主体的に開催できるようにする。

1 奉仕団員の育成と奉仕団活動を強化する防災・減災に関する研修会の開催の支援

年度	実施計画	指標
R8	奉仕団を対象とした研修会開催の支援（1年目）	1 新規（1奉仕団）
R9	奉仕団を対象とした研修会開催の支援（2年目）	1 継続（1奉仕団） 2 新規（1奉仕団）
R10	奉仕団を対象とした研修会開催の支援（3年目）	1 地域と共に防災・減災の講習等を主体的に開催（1奉仕団） 2 継続（1奉仕団） 3 新規（1奉仕団）

重点事項 7

豊かな心をもった青少年の育成強化

- 1 出前講座開催にかかる人材の育成
- 2 青少年赤十字活動にかかわる指導者の育成に向けた環境づくり

【目的】

- ▶児童・生徒が赤十字の精神に基づき、学校や地域における日常生活のなかで実践活動を通して、他者への思いやりやいのちの大切さを学べる機会を増やす。

【3年間の到達目標・指標】

- ▶学校のニーズに合った講座・研修会の実施や、地域と連携した学校づくりに協力するため、各種出前講座の指導者を育成し、奉仕団が行う出前講座を5回以上実施する。
- ▶青少年赤十字に関わる新しい指導者を増やすため、経験の浅い教員が参加できる研修会を2回実施する。

1 出前講座開催にかかる人材の育成

年度	実施計画	指標
R8	<ol style="list-style-type: none"> 1 出前講座の指導者育成研修会開催 2 依頼講座への指導者育成研修会修了者のサポート参加 	<ol style="list-style-type: none"> 1 10名以上の参加 2 6名参加
R9	<ol style="list-style-type: none"> 1 出前講座の指導者育成研修会開催 2 研修会修了者が主導する出前講座の開催 	<ol style="list-style-type: none"> 1 10名以上の参加 2 講座を2回実施
R10	<ol style="list-style-type: none"> 1 出前講座の指導者育成研修会開催 2 研修会修了者が主導する出前講座の開催 	<ol style="list-style-type: none"> 1 10名以上の参加 2 講座を3回実施

2 青少年赤十字活動にかかわる指導者の育成に向けた環境づくり

年度	実施計画	指標
R8	次年度に向けたJRC採用校教員向けセミナーの立案	新たな研修会を立案
R9	採用校の2～3年目程度の教員を対象としたセミナーを実施	採用校向けのセミナーを1回実施
R10	採用校の2～3年目程度の教員を対象としたセミナーを実施	採用校向けのセミナーを1回実施

重点事項 8

創立150年の歴史を50年先の未来につなげる基盤の構築

1 周年記念事業の実施

【目的】

▶令和9年度に創立150周年を迎える日本赤十字社は、その時代において必要とされる人道課題を実践してきた。

変容する未来の社会でも担うべき役割を実践するため、理念に共鳴する人々を増やし、組織の基盤を強化する。

【3年間の到達目標・指標】

- ▶当該年度に周年記念を迎える組織・事業に重点を置いた記念事業を展開する。
- ▶関係者（会員、千葉県赤十字奉仕団、講習参加者、JRC加盟校、地区分区など）や企業・団体からの協力を得ながら事業を実施し、これまで以上の関係強化を図る。
- ▶記念事業の広報により、一般層における赤十字の知名度・好感度向上につなげる。

1 周年記念事業の実施

年度	実施計画	指標
R8	「講習事業100周年」記念事業の実施	1 講習参加者を交えたイベント（企画）の実施 2 他社メディアへの掲載 ・講習関連のプレスリリース5件 ・掲載数3件
R9	「日本赤十字社創立150周年」記念事業の実施 （千葉県支部創立135周年）	1 県民を交えたイベント（企画）の実施 2 他社メディアへの掲載 ・プレスリリース8件 ・掲載数5件
R10	「奉仕団創設80周年」記念事業の実施	1 赤十字奉仕団を交えたイベント（企画）の実施 2 他社メディアへの掲載 ・奉仕団関連のプレスリリース5件 ・掲載数3件

重点事項 9

これからの時代に合った広報の強化

- 1 広報発信体制の強化
- 2 ターゲット層や目的に合わせた広報の展開

【目的】

- ▶赤十字活動の情報を事業内容や対象者に合わせた内容・方法で発信し、赤十字の理解者を増やし、活動の拡大・発展につなげる。

【3年間の到達目標・指標】

- ▶職員の広報意識向上及び広報発信体制の強化により、発信の幅を広げ、広報の充実を図る。
- ▶各年度ごとにターゲットを定め、対象者に合わせた媒体・内容による情報発信を行い、効果的にアプローチする。

1 広報発信体制の強化

年度	実施計画	指標
R8	新規広報媒体の構築	新規広報媒体の構築（1つ以上）
R9	新規広報媒体の構築	新規広報媒体の構築（1つ以上）
R10	新規広報媒体の構築	ホームページの改修または刷新

2 ターゲット層や目的に合わせた広報の展開

年度	実施計画	指標
R8	潜在的な講習受講層に向けた広報展開	SNS掲載形式の整理
R9	若年層に向けた広報展開	参加団体5団体以上
R10	潜在的な赤十字奉仕団加入層に向けた広報展開	広報の展開（閲覧数1,000回以上）

- ▶ 本中期事業計画（令和8年度～令和10年度）を実現性の高い計画とするため、P D C A（計画→実施→評価→改善）サイクルに基づき、適切な進行管理を行います。
- ▶ 計画期間（3年間）が終了後、3年間の実績について総合的に評価を行います。
- ▶ 評価結果については、翌年度の評議員会に提出し、承認を得て最終決定となり、支部ホームページ等で公表し、透明性の高い進行管理を行います。



	評価	評価基準
評価基準 右表のとおり	S	計画を上回る実績（計画の120%以上）
	A	計画どおり適切に実行された（計画の100%以上120%未満）
	B	一定の水準を満たした（計画の50%以上100%未満）
	C	一定の水準を満たすことができなかった（計画の1%以上50%未満）
	D	未実施
最終評価 令和11年3月31日		